

国立病院機構熊本医療センター

No.162



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

「熊本型」ヘリ救急搬送体制の構築に向けて ＜熊本県地域救急医療体制支援病院として＞

2010年8月18日付けで熊本県から「熊本型」ヘリ救急搬送体制の構築に向け、その枠組みが公表されました。

熊本県は2011年12月よりドクターヘリを導入することを決定致しました。現在は熊本県防災消防ヘリコプター「ひばり」がドクターヘリ的に運用されており、年間300件を超える活躍をしています。ドクターヘリ導入後のヘリ救急搬送体制について、熊本県と熊本県救急医療専門委員会において協議を続けてきました結果、ドクターヘリの基地病院を熊本赤十字病院が、防災消防ヘリ「ひばり」の基幹病院を当院が受け持つことに決定し、熊本型の新しいヘリ救急搬送体制を構築して行くことになりました。

ドクターヘリが主に現場救急事案に対応するのに対しまして、防災消防ヘリは、熊本県内各地域の中核病院で治療中の重篤患者で、さらなる集中治療が必要と判断された患者の救命救急センターへの搬送事案に対応致します。当院は、熊本県地域救急医療体制支援病院として防災消防ヘリによる病院間重篤患者搬送のマネジメントを行います。

なお、当院は熊本県地域救急医療体制支援病院として具体的に次のような役割が期待されています。

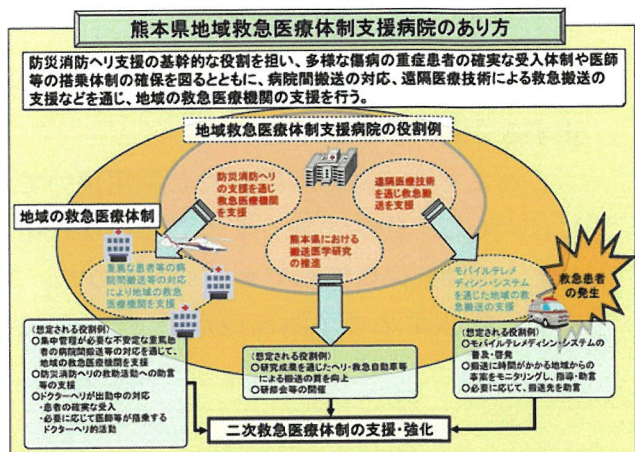
具体的には、地域の中核病院で治療中の重篤な、敗血症、急性薬物中毒、広範囲熱傷、脳卒中、急性心筋梗塞、急性腹症等の患者で、救命救急センターへのヘリコプター搬送が必要な患者の最終受入機関となります。



また、モバイルテレメディシン・システム（上図）やロケーションポーターシステムなどのIT技術を救急車やヘリコプターに導入し、救急搬送中患者の12誘導心電図、バイタルサイン、画像、音声を県下すべての救命救急センターにリアルタイムに配信する病院前救急医療ネットワークシステム、いわゆる救急医療クラウドの構築を産学官連携の研究事業として行います。現在当院では、新病院の完成にともない、旧病棟を取り壊して駐車場をはじめとする敷地内の整備を全力で行っています。2011年度初めにはヘリポートの整備も完了し、2011年12月の「熊本型」ヘリ救急搬送体制の本格稼働に向けて院内の体制強化に努めてまいります。

（救命救急・集中治療部長 高橋 毅）

熊本県地域救急医療体制支援病院とは	
1. 防災消防ヘリの基幹病院として地域の救急医療機関を支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 集中治療が必要な重篤患者の病院間搬送等の対応を通じて地域の救急医療機関を支援 ● 防災消防ヘリの救助活動への助言等の支援 ● ドクターヘリが出動中の対応
2. 遠隔医療技術を通じた救急搬送の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● モバイルテレメディシン・システムの普及・啓発 ● 搬送に時間がかかる地域からの事案をモニタリングし、指導・助言を行う ● 必要に応じて搬送先を助言
3. 熊本県における搬送医学研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究成果を通じたヘリ・救急自動車等による搬送の質を向上 ● 研修会等の開催





「土手の下から…」

整形外科

金井クリニック

院長 金井 隆幸



熊本医療センターの西側の土手のすぐ下に整形外科のクリニックを開業しております、金井でございます。この地は11年前に亡くなった私の父が生前、内科の診療所を開業していた地でもありまして、平成20年の1月に以前の診療所を取り壊し、新たに整形外科のクリニックとして立ち上げております。

思い起こせば、父が開業しましたのが、昭和47年。私が小学校に上がったばかりの頃でありました。それ以来、身近なところで地域医療に携わる父の姿を目の当たりにして育ったためか、私自身が自分の進路として医者以外の路を考えるということもなく、

熊本大学医学部を卒業後は、医者としての路を歩みだしてました。

父が亡くなったのは、私が34歳の時、基礎教室での大学院を卒業し臨床の場に戻ってまもなくの頃でした。すぐに父の後を継いで開業するには、臨床経験も浅く、まったく自信が無かったため、その後数年間の臨床修行の後に開業し、現在に至っております。

たぶん現在のところ、当院が一番熊本医療センターから近い場所にある医療機関ではないのでしょうか。

昨年リニューアルされました熊本医療センターの建物は、私の想像以上に当クリニックのすぐ近くにそびえ建っております、直線距離にすれば10メートル足らずでしょうか。

未だ開業して2年しかたたない当クリニックが、早くもあばら屋のように見えてしまう始末です。

しかし、近いのであれば、それを利用させて頂かない訳には参りません。

一時期は、土手にエスカレーターを付けたり、こっそりトンネルを掘ったりすれば便利になるな〜などと、くだらないことを考えておりましたが、そんなことをせずとも、診断に苦慮する難しい症例や手術が必要な症例、そしてMRIやCTなどの検査が必要な患者さんなど、どんな患者さんもいつでも快く引き受けていただき、これほど日々の診療の中で心強いことはございません。

今後共、土手の下のモグラをお助けいただきますよう、よろしく願い申し上げます。

耳鼻咽喉科休診のお知らせ 来年1月から外来、入院ともに休止します。

当院の耳鼻咽喉科は、常勤医が12月で退職となり、来年1月から診療を外来、入院ともに休止することになりました。

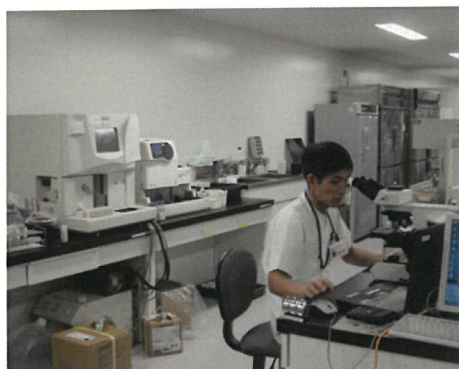
これまで当院耳鼻咽喉科をご利用頂いております患者の皆様、ご紹介頂いております先生方には大変ご不便をお掛けすることになり申し訳ございません。できるだけ早期の診療再開に向けて、医師確保に努めてまいりますので、ご理解を賜りますようお願い致します。

尚、FAXでのご予約は12月10日（金）までとさせていただきます。ご配慮の程、よろしくお願い致します。

国立病院機構熊本医療センター 管理課

新病院施設紹介〈13〉

臨床検査科



一般検査



血液検査



生化学検査



免疫血清検査



輸血検査



細菌検査



病理検査



生理検査

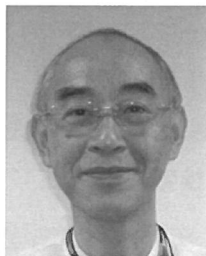


採血室

臨床検査科では外来や入院中の患者様の種々の検査を担当しております。臨床検査部長、臨床検査医長および臨床検査技師長以下25名の臨床検査技師が3階の検体検査室（一般検査、血液検査、生化学検査、免疫血清検査、輸血検査、細菌検査）および病理検査室、4階の生理検査室および採血室の9部門に分かれて実際の業務を行っております。新病院に移り、新しい検査機器も入り、検査のスピードアップや効率化を目指しておりますが、各検査件数は毎月増加傾向にあります。また、医療の進歩に伴い、必要とされる検査の質や種類も変化しており、それらに対応することも重要と考えられます。さらに、24時間体制の救急医療に対応する必要もあり、スタッフは日々、休むことのない検査機器のメンテナンスにも力を注いでおります。今後も患者様にできるだけ負担をかけず、スムーズで正確な検査結果をお伝えできるよう取り組んでまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

（臨床検査科医長 鶴田 敏久）

2010
診療科紹介 (31)
総合診療科



研修部長
外来化学療法センター長
清川 哲志
血液内科、造血幹細胞移植
総合内科・医学教育、膠原病
化学療法
日本内科学会指導医
外国人医師臨床修練指導医
熊本大学医学部臨床教授
日本血液学会・日本造血細胞移植学会



医長
日高 道弘
血液内科、造血幹細胞移植
内科一般、膠原病
日本内科学会総合内科専門医
日本内科学会指導医・認定医
日本血液学会指導医・専門医
外国人医師臨床修練指導医
日本臨床腫瘍学会暫定指導医
インфекションコントロールドクター



医長
原田 奈穂子
血液内科、造血幹細胞移植
内科一般、膠原病
日本内科学会認定医
日本血液学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本造血細胞移植学会



医長
緩和ケアチームリーダー
榮 達智
内科一般、白血病、リンパ腫、
貧血、膠原病、移植医療、
緩和ケア
日本内科学会指導医・認定医
日本血液学会専門医
日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医
日本造血細胞移植学会



医師
井上 佳子
血液内科、造血幹細胞移植
内科一般、膠原病
日本内科学会認定医
日本血液学会専門医
日本造血細胞移植学会



医師
山根 宏美
呼吸器内科
日本内科学会
日本呼吸器学会



医師
田尻 景子
腎臓内科、血液浄化
シャント管理
日本内科学会
日本透析医学会
日本腎臓学会



医師
島川 明子
内分泌・代謝、糖尿病
日本内科学会
日本内分泌学会
日本糖尿病学会

診療内容と特色

専門医療の高度化が進んでいますが、高齢化に伴い診療科が特定できない患者さんの訴えが多くなっています。専門にとらわれることなく総合的な見地から診断と治療を行って参ります。対象となる主な症状として、不明熱、全身倦怠、原因不明の体重減少、部位のはっきりしない痛みなどがあります。患者さんを引き受け、専門医と相談しながら出来るだけ早く診断を行うことを目指しております。ご紹介よろしく申し上げます。

月曜会のご案内

毎月第3月曜日午後7時より、当院研修センターホールにて、公開の内科合同症例カンファレンスを行っております。診断が困難であった症例などの検討とともに、最新の治療や考え方を各専門医から解説してもらいます。自分の専門分野以外の医療知識をフレッシュアップして、実際の診療に生かして下さい。内容につきましては毎回「くまびょう」に掲載しております。どうぞお気軽にご参加下さい。

タイ・コンケン病院訪問報告

当院とタイ国コンケン病院との姉妹協定に基づくプロジェクトは、この11月に満1年を迎え、当院からの研修医派遣、コンケン病院からの大学院生受け入れ、そして今回のコンケン病院からの研修見学使節団訪問と、着実に一歩ずつ前進しています。

昨年11月16日国立病院機構熊本医療センターはタイ国コンケン病院との間に姉妹協定を締結しましたが、それから丁度1年が経ち、今度は研修見学のために5名のコンケン病院スタッフを迎えることになりました。そのメンバーは

1. アヌタンクーン ウィーラサック 副院長 (男性)
Dr. Weerasak Anutaungkoon
2. アヌクーンアナンチャイ ジーラサック 内科部長 (男性)
Dr. Jirasak Anukoolanuntachai
3. チャイナンサミツ スーオン 小児科部長 (女性)
Dr. Suorn Chainunsmith
4. シリワチラチャイ ティティポン 産婦人科部長 (女性)
Dr. Thidiporn Siriwashirachai
5. ポーチャン スワニット 看護部長 (女性)
Ms. Suwanit Poechan



看護学校での見学研修



両病院看護部長による看護活動発表と意見交換



池井病院長を表敬訪問

の5名であり、既に当院の研究助手であり熊本大学大学院医学教育科学生でもある元コンケン病院院長秘書で看護師のポルンクナ ラティオン (Ratiorn Pornkuna) さんは、今回は当院の案内役として参加しました。一行は2010年11月13日から、土日の観光に続き、当院見学、各診療科による当院活動紹介、看護部活動紹介、看護学校見学、手術見学、そして意見交換と充実した5日間を送りました。初日の歓迎パーティーには院長、副院長、それぞれ同じ診療部長の先生方、そして看護部長・副部長に参加していただき、和気あいの雰囲気の中楽しい時間が過ごすことができました。18日早朝に帰国の途につきましたが、全員が当院の暖かい歓迎に感激しており、これからもお互いに協力して両病院の発展に尽力していくことを確認しました。

(血液内科医長 武本 重毅)

エジプト研修 (第15回臨床免疫国際研修) 報告



講義終了後参加者と。

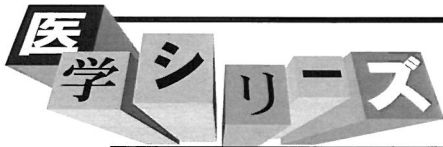
私はエジプトで開かれていました国際研修会に講師として参加してきました。この研修は1996年からJICA第三国研修としてアハマド・アル=ゴハリ医師 (現ファイユーム大学学長) が始めた研修です。そのきっかけとなったのは1992年当院で行われましたJICA集団研修に同医師が参加したことでした。当時同医師が所属していたスエズ運河大学で13回、ファイユーム大学に移ってからは今回で2回目の開催となります。研修会に参加した医師はブルンジ、コモロ、コンゴ、ジブチ、エチオピア、エリトリア、ケニア、マラウイ、モーリシャス、ルワンダ、セイシェル、スーダン、スワジランド、タンザニア、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエから1人ずつ、エジプトからは3人の計20人が定員です。今回私の講義に参加したのは19人

でした。10月3日から11月13日までの日程で研修がありましたが、私は11月3日、4日にその研修会に参加しました。アフリカではほとんど知られていない成人T細胞白血病(ATL)と施設の整備や輸血システムがしっかりしていないとできない造血幹細胞移植について講義をしました。講義をする前はこのテーマではあまり参加者の興味をひかないだろうと思っていましたが、意外にも多くの質問を受けました。ATLはアフリカに多く見られるエイズと同じレトロウイルス感染で起こり、免疫不全など同じような日和見感染を来すため興味をひいたのだらうと思います。造血幹細胞移植に関しても将来はやってみたいという積極的な感想も聞かれ印象的な研修会となりました。

(血液内科医長 長倉 祥一)



吉原先生の実習を見学



No. 174

産婦人科 (No. 6)

最近のトピックス

卵巣癌の加療と地域連携



産婦人科医長
西村 弘

【卵巣癌について】

日本人の卵巣癌罹患率は、10万人当たり約8.3人であり、子宮体癌と同様増加しています。当科においては、2005年から現在にかけて、136例（うち上皮性卵巣癌108例）の卵巣癌を加療してきました。上皮性卵巣癌（特に漿液性腺癌）および一部の胚細胞腫瘍については、卵巣がん治療ガイドライン（2007年度版日本婦人科腫瘍学会編）に、加療法がgrade A-Bのevidenceで推奨されています。

【卵巣癌の加療】

卵巣癌の初期治療は、開腹手術によるstagingより始まります。基本的には、子宮および両側卵巣・卵管摘出術、後腹膜（骨盤内、傍大動脈）リンパ節郭清または生検および大網切除を施行して、最終組織診断と術後進行期を決定し、その後追加治療を施行します。完全切除が可能であった場合も含めてIb期以上は、原則術後化学療法が必要となります。

【術後化学療法】

術後の化学療法は、TC療法（パクリタキセル175mg/M2、カルボプラチン AUC 5）を3-4週間隔で3-6サイクルすることが標準治療とされてきましたが、最近JGOG（日本婦人科悪性腫瘍化学療法研究機構）よりdose dense TC療法（dd-TC：パクリタキセル80mg/M2をday 1、8、15投与、カルボプラチンAUC5）による予後改善の報告がありました（図1）。分子標的薬による効果は、卵巣癌にては確定しておらず、今回のdd-TC療法は、世界で初めて従来のTC療法を上

回る治療効果を証明した画期的なものであり、中央無増悪生存期間（PFS）がTC療法と比べて17.2ヶ月から28ヶ月へ延長します。当科においても、この治療法を積極的に取り入れています。

【地域連携について】

卵巣癌全体の5年生存率は、50%以下と予後不良なものであり、初期治療後も厳重な管理を必要とします。ガイドラインでは、加療後1年目は1-2ヶ月毎、2年目は2-3ヶ月毎、3年目は3-4ヶ月毎、5年目までは4-6ヶ月毎、10年目までは6-12ヶ月毎の受診が必要とされています。各受診時には、婦人科的診察と腫瘍マーカーの検査が、6-12ヶ月毎に画像評価が必要となります。当科にては、患者様の利便性を考慮して表1のような、地域連携診療を連携病院の先生方の協力のもと、開始しようとしています。各受診時には、連携病院にて婦人科的診察をしていただき、MRI等の画像評価が必要な時には当院を受診していただきます。また、急変時や再発が疑われる時は、当院の救急外来等を受診していただければ常時対応いたします。将来的には術後の化学療法も含めた地域連携システムを構築して、卵巣癌およびその他の婦人科癌も含めた地域連携診療も開始したいと存じます。連携病院の先生方のご協力を宜しくお願い申し上げます。

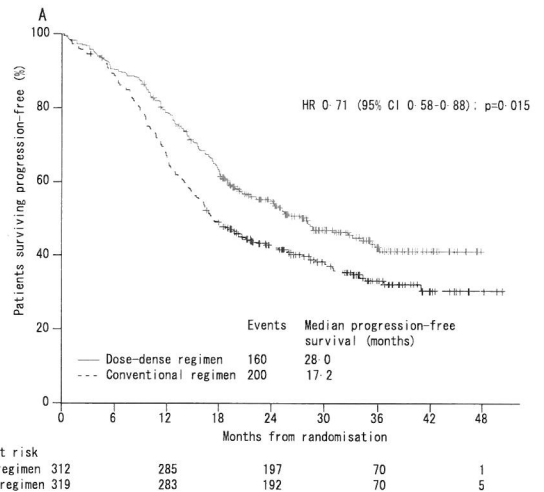


図1. ddTC療法における progression free survival
Lancet 2009;374:1331-38より

共同診療計画表		【卵巣癌術後サーベイ連携】												
患者ID:	患者名:	棟:	施設名	電話番号	主治医	受持ち看護師	通院頻度							
適応基準:			かかりつけ医(GL)				下記						6ヶ月に1回	
除外基準:		<input type="checkbox"/> 再発症例	専門医(HP)											
継続指示:		<input type="checkbox"/> 緩和ケアの適応												
		<input type="checkbox"/> 食事が入らないとき ⇒ 専門医紹介												
		<input type="checkbox"/> 体重減少が続くとき ⇒ 専門医紹介												
		<input type="checkbox"/> 腫瘍マーカー上昇時 ⇒ 専門医紹介												
		<input type="checkbox"/> 再発が疑われるとき ⇒ 専門医紹介												
【最終目標】 QOLが維持して、再発を早期に発見する。														
目標	・患者のQOLが維持できている。	HP	CL	HP	CL	HP	CL	HP	CL	HP	CL	HP	CL	HP
	・再発を早期に発見する。	診断後1M	1回/1ヶ月	6M	1回/1ヶ月	12M	1回/2ヶ月	18M	1回/2ヶ月	24M	1回/3ヶ月	36M		
・重篤な合併症を加療する。	月	診察	月	診察	月	診察	月	診察	月	診察	月	診察	月	診察
目録	日		日		日		日		日		日		日	
診療	症状	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	病状	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
検査	血液学的検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生化学検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	腫瘍マーカー (GA125等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	画像検査 (MRI、胸等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
投薬	その他	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	一般薬	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
指導	内服確認													
	副作用説明													
	生活指導													
	その他													

表1

(6)

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ49回

「入院中と外来通院中の循環器疾患患者の健康関連QOLの比較」

6北病棟看護師 松永 智樹



現在、うつ病や躁うつ病にかかる人が増えていると言われています。1996年には43.3万人であった総患者は2008年には104.1万人と9年間で2.4倍に増加しています。

また、心疾患に伴ううつ病の発症率は30%近く、一般の有病率の約2倍です。うつ病を伴うと予後が悪化し、心疾患患者の健康状態は全般的に悪化するといわれており、そのため、心疾患患者に対する心のケアが必要不可欠であると考えています。

長谷川の研究の結果、心疾患患者の精神的・心理的傾向は、抑うつ症状、不安症状が出現する前段階のうつ傾向であることが解明されていますが、うつ病・うつ状態と循環器疾患とが関連するメカニズムについてはほとんど知られていません。交感神経系の関与や血小板活性の亢進など推測されつつも、いまだに不明です。

健康関連QOLを測る尺度の一つとしてSF-36があります。SF-36は、1993年に米国Medical Outcomes Studyの一部として発表され、過去1ヶ月の健康状態に関する36の質問で構成されている自己記入回答式です。また、プロフィール型の包括的尺度であり、身体機能、日常役割機能(身体)、体の痛み、全体的健康感、活力、社会生活機能、日常役割機能(精神)、心の健

康の8つの下位尺度で構成され、身体的健康と精神的健康の2つの側面から測定できるようになっています。

今回、健康関連QOL尺度のSF-36v2™日本語版を使用し、循環器疾患患者の入院期間中と退院してからの健康関連QOLの状態について明らかにすることを目的に研究を行いました。

入院中の患者は、在院日数1週間以上でADLが自立している患者を対象にしました。年齢は、入院中66.63±13.76歳(n=40)、外来通院中61.82±14.71歳(n=50)でした。

入院中と外来通院中の循環器疾患患者の健康関連QOLを比較すると、身体機能(PF)(P=0.001 η=0.340)、日常役割機能(身体)(RP)(P=0.001 η=0.343)、日常役割機能(精神)(RE)(P=0.007 η=0.282)に有意差を認めました。(図1)

次に、身体的健康をあらわすサマリースコア(PCS)と精神的健康をあらわすサマリースコア(MCS)について比較するとPCSに有意差(P=0.000 η=0.631)を認めましたが、MCSに差は認められませんでした。(図2) このことにより、循環器疾患患者は、入院中において身体的健康と精神的健康に相関関係はなく、入院という事象によって、精神的健康が損なわれることはないということが明らかになりました。

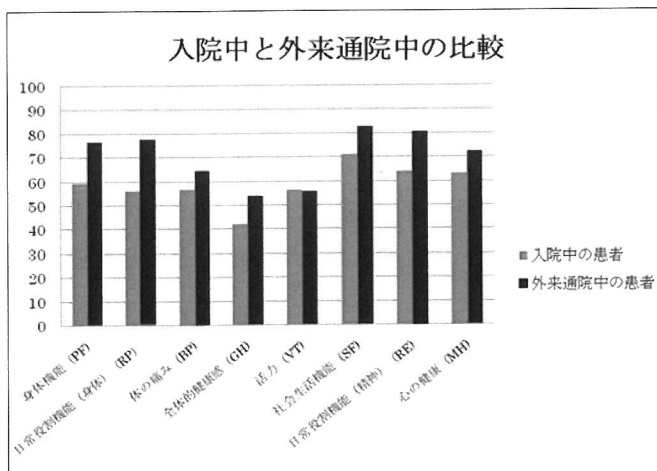


図1

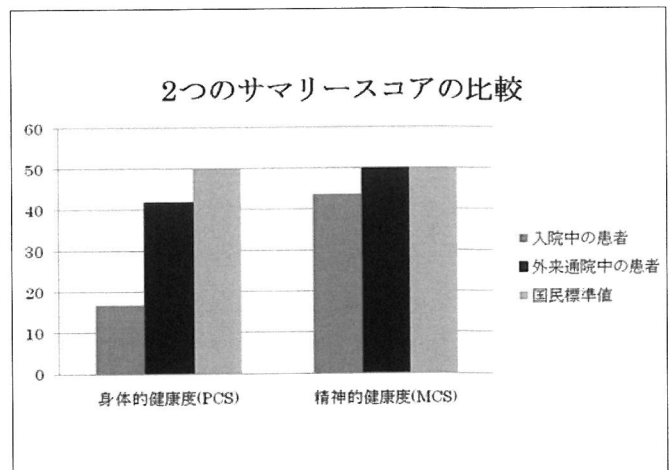


図2

研修医レポート

臨床研修医

1年次 ^{ほんだ} **本田** ^{むねのり} **宗倫**



こんにちは。研修医1年目の本田宗倫と申します。熊本大学医学部を卒業し、4月から研修させていただいております。研修医としての生活が始まり前半年が経とうとしていますが、まだまだ慣れない点も多く皆さんにはご迷惑をおかけしている毎日です。

私は、今までに血液内科、麻酔科を回り、現在は神経内科でお世話になっております。血液内科は研修医になって初めて回った科であり、右も左もわからない状況からのスタートでした。まず、病院で仕事をしていく上で必要な電子カルテの使い方を丁寧に教えていただきました。また、患者さんとの接し方や、看護師さんを初め関わりある多くの医療関係者への連絡や報

告の大切さなど、医師として働く上で必要なことを数多く学ぶことができました。さらには、採血、骨髄穿刺、CVカテーテルなどの手技や骨髄移植の技術なども学ぶことができとても充実した2ヶ月を過ごすことができました。

麻酔科ではルート確保、気管挿管、ルンバルなどを学ぶことができました。気管挿管は救急など様々な場面で必要な手技です。初めは力が入りすぎてなかなかうまく管を入れることが出来ませんでした。指導医の先生方に根気強く教えていただいたお陰で研修が終わるころにはスムーズに出来るようになりました。さらには、術中管理や人工呼吸器の使い方など様々な知識を得ることもできました。

現在、神経内科では神経診察やCT・MRIなどの画像、さらには脳梗塞のリスクや合併症の管理などを勉強させていただいております。

これからも毎日、少しずつ手技や知識を学び多くの経験を通して成長していきたいと思っています。ご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

臨床研修医

1年次 ^{ふくしま あやこ} **福島亜矢子**



研修医1年目の福島亜矢子と申します。当院での初期研修2年間で早くも4分の1過ぎてしまったかと思うと、なかなか胸を張って成長したとは言えない自分に少し焦りを感じています。

私は消化器内科、救命救急部、循環器内科を2ヶ月ずつローテートしました。消化器内科では消化管出血、急性膵炎といった救急疾患から悪性腫瘍まで幅広い疾患の診療に関わることが出来ました。週に2日は外来患者さんへの腹部エコーを担当し、自分一人で所見をとることとおのずと責任感を持って勉強する機会にもなりましたし、先生方に最終チェックをして頂き自分の見落としていた所見をその場で確認する事で腹部エコーの基礎を習得出来たと思います。また上部内視鏡検査や透視下でのイレウス管挿入なども先生に御指導して頂きながら実際に経験させて頂きました。

救命救急部では救急外来での初期診療や手技を学ぶだけでなく、病棟を持つ事でCHDFや人工呼吸器等のICU管理も学ぶ事が出来ました。その中で救急疾患の診療にあたる際には一瞬の躊躇によって救命出来なくなる危険性を常に念頭に置いておくべきだと感じました。救急の研修を経て、侵襲的な処置も必要なら行う、身体所見に変化を感じたらすぐに相談し検査を追加するといった姿勢が身についた様に思います。

循環器内科では心不全の薬物管理、AMIの初期治療とその後の再発予防、AfやDVTでのワーファリンコントロールなど、医師として知っておくべき薬物療法を基本から丁寧に御指導頂きました。また、心臓カテーテル検査ではSwan-Ganzカテーテルの静脈穿刺から圧の記録までを一連で経験させて頂き、中心静脈穿刺については先生方の御指導のお陰で少し自信が持てる様になりました。

この半年間は怒涛の様に過ぎていきましたが、一日一日を取ってみると大変充実しており実際の診療に携わる事で自分の未熟さに改めて気付かされる事も多くありました。残り一年半、日々の経験や皆様からの御指導を最大限に吸収出来る様努力して参ります。

研修のご案内

第28回 熊本がんフォーラム（無料）

日時▶平成22年12月16日(木)19:00~21:00
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長 坂本産婦人科クリニック 院長 坂本 卓史先生

「当科における婦人科悪性腫瘍の診療状況と最近の話題」

国立病院機構熊本医療センター産婦人科医長 西村 弘

〔代表世話人〕国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長 芳賀 克夫

〔連絡先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターTEL:096-353-3515(直通) 096-353-6501(代表) 内線2360

第112回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成22年12月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「血糖コントロールのため入院し精査中に偶然膵癌が発見された2型糖尿病の一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
片桐光浩、児玉章子、島川明子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗
 2. 「フルニエ壊疽を起こした血糖コントロール不良で肥満を伴う2型糖尿病の例」
国立病院機構熊本医療センター形成外科 万江由紀子、大島秀男
- なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。
〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

第143回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成22年12月20日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
 2. 持ち込み症例の検討
 3. 症例検討「下腸間膜動脈瘤の1症例」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科 平田 快紘
 4. ミニレクチャー「TIAのパラダイムシフト」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 俵 哲
- 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。
〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第16回 国立病院機構熊本医療センター医学会の開催と演題募集のご案内

第16回国立病院機構熊本医療センター医学会が2011年1月15日(土)に国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センターにて開催されます。

例年通り病院全体の職種が参加し発表します。

開放型病院登録医の先生方にも是非ご発表頂きたく演題募集をさせていただきます。

応募方法は演題抄録をフロッピー、CDまたはUSBに入れて下記宛ご送付頂くか、e-mailにてご送付下さい。多数のご参加をお待ち致しております。

抄録提出締切日：2010年12月10日(金)

- 抄録の文字数は全体（演題名、所属、発表者、共同演者、本文）で600字以内にしてください。
- 本文は【目的】【方法】【結果】【総括】、症例報告は【目的】【症例】【経過】【考察】にそって記述して下さい。
- 図表の使用はできません。半角カナは使用できません。
- 尚、発表は原則としてPCで、使用ソフトはパワーポイントで作成したものに限りします。
- 発表時間は6分、討論3分です。
- 参加費は無料です。

お問合せ・送付先：〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター医学会実行委員 臨床研究部長 芳賀 克夫

TEL:096-353-6501 FAX:096-325-2519 E-mail:scott@kumamoto2.hosp.go.jp

2010年 研修日程表 12月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

12月	研修センターホール	研修室	その他
1日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
2日(木)			7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
3日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
4日(土)	14:00~16:00 第226回 滅菌消毒法講座 「感染を取りまく最近の話題」 東京医療保健大学大学院感染制御学教授 大久保 憲		
6日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
7日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前術後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
8日(水)	18:00~19:30 第66回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
9日(木)			7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
10日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
13日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
14日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:30 外科術前術後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
15日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
16日(木)	19:00~21:00 第28回 熊本がんフォーラム 「当科における婦人科悪性腫瘍の診療状況と最近の話題」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科医長 西村 弘	19:00~20:45 第112回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
17日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
18日(土)	13:30~16:30 第118回 看護卒後研修 「臓器移植看護」 熊本赤十字病院社会課長(熊本県移植コーディネーター) 西村真理子		
19日(日)	9:00~12:00 公開肝臓病教室 「肝臓について」		
20日(月)	19:00~20:30 第143回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定]		8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
21日(火)		19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前術後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
22日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
24日(金)			8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
27日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
28日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前術後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代)内線2630 096-353-3515(直通)